

# 大豆ニュース No.4

～病害虫対策・雑草対策～

令和 7年 9月 1日  
巻農業普及指導センター

## 1 生育調査結果(調査日8月25日)

調査地点		主茎長 (cm)	葉数 (L)	一次分枝数 (本/m <sup>2</sup> )	培土実施 状況	播種日	開花期
里のほほえみ							
中之口	河間	62	12.9	26.8	2回実施	6月6日	7月28日
岩室	高畑	75	12.9	39.4	2回実施	6月4日	7月23日
西川	真田	63	12.2	38.7	2回実施	6月12日	7月26日
平均		67	12.7	35.0		6月7日	7月25日
(参考)播種90日後指標値		69	-	55.0	注)実収270kg/10aとなる生育指標(里のほほえみ)		
エンレイ							
潟東	横戸(麦跡)	61	12.1	45.9	2回実施	6月17日	8月2日
西川	平野	64	12.8	38.9	2回実施	6月7日	7月21日
平均		63	12.5	42.4		6月12日	7月27日
(参考)播種90日後指標値		59	-	44.0	注)実収270kg/10aとなる生育指標(エンレイ)		
平均(5調査地点)		65	12.6	37.9		6月9日	7月26日
平年値		63	12.3	38.2		6月8日	7月25日

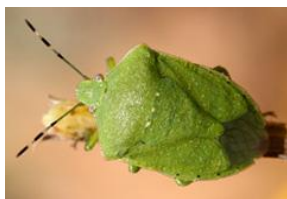
- 5調査地点平均の主茎長、葉数、分枝数は平年並でしたが、多収の目標値に比べ里のほほえみの分枝数が少ない状況です。
- 8月5日以降の断続的な降雨により、7月の高温、干ばつによるしおれ症状は改善しました。
- 開花期以降の干ばつ等により、落花、落莢が発生したとみられ、着莢数は少ない見込みです。
- 基幹防除(紫斑病及び子実害虫(マメシクイガ、カメムシ類))が8月第5半旬頃から実施されています。

## 2 病害虫防除 ～発生状況によっては追加防除の検討を～

防除薬剤や時期については、7月23日付け「大豆ニュース No3」に記載しています。  
(巻農業普及指導センターのホームページからご覧になれます)

### カメムシ類 (子実の吸汁害)

- カメムシ類による吸汁により、吸汁痕や扁平粒が発生し、加害が著しい場合は子実への養分転流が進まないため、青立ち状態となります。
- 8月第5半旬からの基幹防除後も本田内でカメムシ類の発生が見られる場合は、9月中旬頃(子実肥大中期)に追加防除を行う。
- ダイズ加害カメムシ類 (農研機構「ようこそ!ダイズの病害虫診断のページへ!」より)



アオクサカメムシ成虫



ホソヘリカメムシ成虫



イチモンジカメムシ成虫



ブチヒゲカメムシ成虫

農薬使用の際は、農薬容器や包装ラベル等に記載の登録内容を確認のうえ厳守し、農薬使用者は責任をもって適正に使用してください。また、薬剤が周辺ほ場に飛散しないよう散布してください。

### 3 雑草対策 ～汚粒の発生防止～

- 汚粒の発生原因となる雑草や青立ち株は、収穫前までに必ず抜き取り、ほ場外へ持ち出しましょう。
- 特に、ヨウシュヤマゴボウ、イヌホオズキは、収穫物に果実汁が付着すると検査対象外となるので、必ず抜き取りましょう。
- 青立ち株が多発生した圃場は、正常に成熟したほ場と刈り分けて収穫しましょう。



ヨウシュヤマゴボウ (赤色)



イヌホオズキ (紫色)



青立ち株 (右の株)

目標収量180kg/10a、3等級以上を目指し、  
一つひとつの管理対策を確実に実践しましょう！